

わかる!

できる!

つかえる!

「個別の教育支援計画」 作成・活用マニュアル

次の
ステージへ



保育所
幼稚園
など



小学校



中学校



高等学校

作成について・スケジュール

様式例

活用事例

Q
&
A

「個別の教育支援計画」作成について

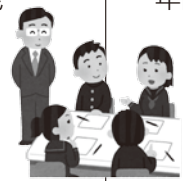
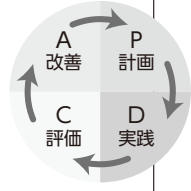
個別の教育支援計画とは、障害がある子供など、特別な教育的支援が必要な子供について、家庭や地域、医療、福祉、保健、労働等の関係機関と連携し、長期的な視点に立って、幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を効果的に実施するための計画です。

- 将来の自立と社会参加を目指し、幼児児童生徒が主体的に学校生活を送る上で、支援を引き継いでいくことは、大変重要なことです。
- 支援目標・内容が一目で分かり、全教員や保護者などと共有できる「個別の教育支援計画」を作成・活用しましょう。

☆学習指導要領において、特別支援学校、特別支援学級及び通級指導教室で学ぶ幼児児童生徒については、全員作成し、活用することとされています。

「個別の教育支援計画」作成スケジュール (例)

	何を？	いつ？	誰が？	どのように？
作成準備	本人・保護者への説明や聞き取り	前年度末 ～ 年度初め	担任	<ul style="list-style-type: none"> 本人や保護者に個別の教育支援計画作成の趣旨を説明する。 本人や保護者と面談して、願いや希望を聞き取る。 <p>➔ P.6「聞き取り用紙(例)」を参照</p>
	引継ぎ・実態把握	前年度末 ～ 年度初め	担任 関係教員	<ul style="list-style-type: none"> 前年度までの担任や関係教員、前籍校担任等から、本人に関する情報やこれまでの取組についての情報を引き継ぐ。 行動観察等から実態把握を行い、本人の発達段階や特性、強み・弱みなどを探る。 <p>「子供のために先生が気づいて動けるチェックリスト(※1)」や「特別支援教育 学びQ&A(※2)」を活用しましょう！</p>
計画作成	支援目標・内容の検討、計画の作成	年度初め ～	担任 関係教員 校内委員会	<ul style="list-style-type: none"> 実態把握及び本人・保護者の願いを基に、どのような力を伸ばしていけばよいか、おおよそ3年間で達成を目指す支援目標・計画を立案する。 本人・保護者の同意を得た上で関係機関と情報交換等を行い、支援目標・内容・合理的配慮を記入する。(合理的配慮はP.5参照) 立案した個別の教育支援計画を、校内委員会等にて検討し、共通理解を図る。
	校内での共通理解			
	支援目標・内容・方法の説明・合意	作成後	担任	<ul style="list-style-type: none"> 完成後、家庭訪問や懇談会等で、支援目標・内容等について、本人・保護者と合意形成を図る。

	何を？	いつ？	誰が？	どのように？
活用	支援の実践 	年間	担任 関係教員 関係機関	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画に基づいて、関係機関と連携を取りながら支援を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学校では、個別の指導計画（※3）を作成して、支援を行いましょう。 </div>
	支援目標・内容の見直し 	随時	担任 関係教員 関係機関	<ul style="list-style-type: none"> 支援目標が達成された、もしくは実態からずれが生じてきたときは、ケース会議等を行い、保護者や関係機関と支援内容や支援方法について見直し、本人の実態に合ったものに変更する。
評価・改善	年間評価の記入	年度末	担任 関係教員 校内委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の支援の成果と課題をまとめる。支援目標・内容を見直す。 次年度への引継ぎ事項をまとめる。
	評価・次年度の目標等の確認	年度末 ↓ 次年度	担任	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会等で、評価について本人・保護者と共通理解を図るとともに、次年度へ向けて支援目標・内容等の確認を行う。 次年度へ引き継ぎ、継続した支援を行う。

※1 子供のために先生が気づいて動けるチェックリスト

特別な支援を必要とする子供の実態と教育的ニーズを把握し、教育的対応を考えるためのものです。各学校等に配布されているほか、総合教育センターのHPでも閲覧・ダウンロードができます。

チェックリストには、以下のものがあります。

発達に関するチェックリスト	保育場面や就学時健康診断等でみられる子供の姿から、発達に関する特徴を把握し、必要な支援を実践するためのもの。
学校生活チェックリスト	学校生活等でみられる子供の姿から、学習や行動に関する特徴を大まかに把握し、必要な支援を実践するためのもの。
支援検討チェックリスト	学習や行動等に関する実態をより詳細に把握し、本人の強みを意識した指導・支援の計画を立てて実践するためのもの。



※2 特別支援教育 学びQ&A

富山県教育委員会が作成した、特別支援教育指導資料第102集「特別支援教育 学びQ&A (指導事例集)」(平成28年3月発行) のことです。

実態把握の視点、つまずきの要因、指導・支援の例等が具体的に掲載されています。

各学校に配布されているほか、総合教育センターのHPでも閲覧・ダウンロードができます。

学びQ&A

検索

※3 個別の指導計画

個別の教育支援計画の支援目標を基に、各学校等で指導場面ごとの具体的な目標と内容、方法を記載するものです。

個別の教育支援計画（様式記入例）

個別の教育支援計画

（ 年度 ～ 年度）

本人	ふりがな		性別	在籍校	学校		
	氏名			学部	年～	年	
	住所			前籍校	学校（園）		
保護者	氏名			障害名等			
	住所				手帳	身障手帳	級（ 年 月交付）
						療育手帳	A・B（ 年 月交付）
					手帳		

現在困っていること		将来についての希望	
本人	保護者	本人	保護者
面談による聞き取りや聞き取り用紙を基に記入します。 ➡ P.6参照			

支援の目標及び必要と思われる支援	本人の将来を見据え、家庭や関係機関と連携して3年程度で達成を目指す目標を記入します。	<文例> <ul style="list-style-type: none"> ～を通して、…ができるようにする。 ～と連携を図りながら、…の支援を行う。
------------------	--	---

合理的配慮	本人・保護者との合意に基づいて、記入します。 ➡ P.5参照 「子供のために先生が気づいて動けるチェックリスト」を活用しましょう。
-------	--

		支援機関	支援目標・内容
教育	在籍校	担任（ 年） （ 年） （ 年） 連絡先；	<ul style="list-style-type: none"> 「支援の目標及び必要と思われる支援」「合理的配慮」を受けて、各関係機関で取り組む具体的な支援目標・内容を記入します。記入にあたっては、「子供のために先生が気づいて動けるチェックリスト」及び「特別支援教育 学びQ&A」を参考にしましょう。 ➡ P.2参照 学校以外の機関については、本人・保護者からの聞き取りや、本人・保護者の同意を得た上で、関係機関と連携を取りながら記入します。 定期的に見直しを行います。
	（その他）	支援機関； 連絡先；	
家庭	主な支援者；		
医療	支援機関； 連絡先；		
福祉	支援機関； 連絡先；		

	支 援 機 関	支 援 目 標 ・ 内 容
労 働	支援機関； 連絡先；	
地域生活	支援機関； 連絡先；	
そ の 他	支援機関； 連絡先；	

作成日	年 月 日	学 校 長
		作成担当

私は、以上の内容を了解しました。

平成 年 月 日 氏 名 _____

本人・保護者の了解が得られたら、署名してもらいます。

支 援 の 評 価 と 課 題	年 度	支援目標について家庭や関係機関と連携して取り組んできたことに対する評価(成果)や課題を記入します。
	年 度	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><文例></p> <ul style="list-style-type: none"> • ○○と連携して～に取り組んだことにより、～だった。今後は～。 • □□に継続的に取り組んだところ、～ができるようになってきた。今後も～。 <p style="text-align: right;">➡ P.8・P.10参照</p> </div>
	年 度	

< 関係機関等における支援歴等の一覧 >

-----> : 現在利用（在籍）している機関
 ———> : 過去に利用（在籍）していた機関

	0 乳幼児期	3 就学前	6 小学校	9	12 中学校	15 高等学校	18 高等学校卒業後	20
教 育			④ 〇〇幼稚園	⑥ 〇〇小学校	⑨ 〇〇教育センター (相談)	⑩ 〇〇教育センター (相談)	⑫ 〇〇中学校	⑬ 〇〇中学校
医 療		③ 〇〇病院 (受診)		⑨ 〇〇クリニック (診察・服薬)				
福 祉								
労 働								
地域生活								
そ の 他								

現在利用している機関や、過去に利用していた機関を分ける範囲で記入しましょう。

合理的配慮について

●合理的配慮とは

障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるものであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの

●合理的配慮の提供プロセスと主な内容

- ① 意思の表明 本人・保護者から合理的配慮の申出
- ② 調 整 実態把握
合理的（必要かつ適当な変更・調整）かどうか
過重な負担かどうか
申出を踏まえた合理的配慮の内容の検討
- ③ 決定・提供 個別の教育支援計画等への明記
合理的配慮の提供
- ④ 評 価 定期的な評価
(十分な教育が提供できているか)
- ⑤ 見 直 し 柔軟な見直し

調整・決定に当たっては、合意形成に向けた、本人・保護者との建設的対話が大切

「合理的配慮」の具体例

板書を写すことが難しい

タブレット端末で板書を撮影し、それを見てノートに写す



座席の配慮 (前の座席にするなど)

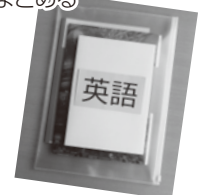


忘れ物が多い

持ち物がチェックできる連絡帳



持ち物を教科ごとにまとめる



聞き取り用紙 (例)

本人や保護者から聞き取った内容や前籍校(園)からの資料を基に記入する用紙の例です。



◎ 下記の項目、観点を参考に聞き取りをするとよいでしょう。

学年・組	氏名	記入者	作成日
	本人の願い		保護者の願い
将来の希望	<ul style="list-style-type: none"> サッカー選手になりたい。 <p>必ず聞き取ります。本人、保護者の願いは、支援目標・内容を考えるときに大切な情報です。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 勉強は苦手でもよいから、せめて高校までは行ってほしい。
今できるようになりたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 友達がいないから楽しく遊べる友達がほしい。 勉強ができるようになりたい。 <p>困っていることも尋ねるとよいでしょう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 読み書きが上手にできるようになってほしい。 自分の思いや考えを言葉でうまく伝えられるようになってほしい。

好きなこと・特技

ゲーム、サッカー、理科が好き。

サッカーチームの選手などの情報、歴史上の人物に関する知識が豊富。

好きなこと・特技等は、支援目標・内容に生かせるので、聞き取るとよいでしょう。

生育歴 (気がかりだったことを中心に聞き取る)

乳児期や幼児期の様子等

乳幼児健診や就学時健診では特に指摘されることはなかった。

弟が産まれた時、保育所に行くことを嫌がった。

聞くことができる範囲で聞き取りましょう。幼少期の頃の様子から支援のヒントが得られる場合があります。

受診歴・相談歴等

小2の時、学校で「発達障害ではないか」と言われ、総合教育センターで相談を始めた。

家庭に関すること (家での関わり方の様子等)

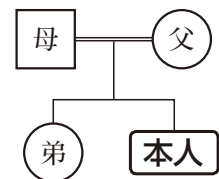
父：カルタや絵カードで一緒に遊んでくれる。

母：読み書きの苦手さを心配し、宿題を横についてみている。

弟：1歳年下。学校や放課後児童クラブでの兄の様子を母親に伝える。

肯定的な表現で記述しましょう。家族関係を理解することは、支援目標・内容を考えるときの手がかりになります。

家族構成



地域生活に関すること (利用している機関・よく行くところ等)

水泳クラブ
週1回

学校

サッカークラブ
週1回

本人
(家庭)

放課後児童クラブ
週3回

総教
月1回

英会話教室
週1回

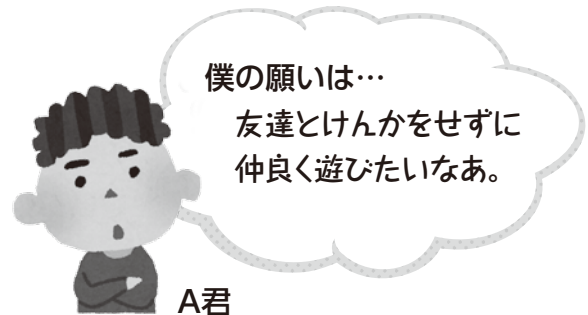
・英会話教室とサッカークラブには意欲的に参加している。一緒に活動している友達とのトラブルはほとんどない。

本人を中心に記述しましょう。本人を取り巻く環境から包括的な支援がみえてくる場合があります。

放課後児童クラブと連携し、友達との関わり方が改善された事例


5月 個別の教育支援計画を作成

7月 放課後児童クラブを利用し始めました。
友達とけんかが絶えず、本人も職員も困っています。



個別の教育支援計画の活用

8月【ケース会議(第1回)実施】 テーマ「友達との関わり方」

参加者	内容
保護者、教頭、学年主任、担任、特別支援教育コーディネーター、放課後児童クラブ職員 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の気持ちを考えずに自分の思いを通すなど、学校と放課後児童クラブでの様子、本人の得意なことや苦手なこと等、情報を共有。 ○友達への言葉の掛け方、約束を守ることの学習の必要性を共通理解し、学校、家庭、放課後児童クラブで連携して支援をしていくことを確認。★1 ○保護者、担任、放課後児童クラブ職員で、本人の様子について連絡帳や電話で情報共有することを確認。 ○担任は、共通理解した学習内容を、2学期の自立活動に取り入れることを計画。★2

友達に優しく声を掛ける姿や約束を守る姿が見られるようになった!

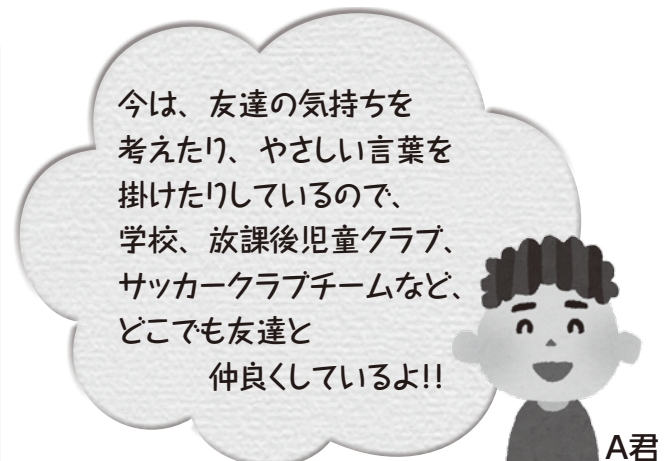
〈学校〉 休み時間に友達と楽しく過ごしたり、行事では同じ学年の友達と仲良く参加したりする場面が増えてきた。

〈放課後児童クラブ〉 けんかが少なくなり、友達と仲良く遊んでいる場面が増えてきた。

個別の教育支援計画の活用

12月【ケース会議(第2回)実施】

参加者	内容
第1回と同様	<ul style="list-style-type: none"> ○学校、家庭、放課後児童クラブにおける本人の様子について情報交換。 ○有効だった支援方法について共通理解。今後の支援継続を確認。



事例①

個別の教育支援計画 (例)

(年度 ~ 年度)

本人	ふりがな		性別	在籍校	〇〇市立〇〇小学校 1年～3年
	氏名	A	男	前籍校	〇〇幼稚園
				障害名等	手帳

支援の目標 及び 必要と思われる 支援	<ul style="list-style-type: none"> 〇場や状況に応じた適切なコミュニケーションの力を付けることができるようにする。 〇準備や片付けを一人でできるようにする。
------------------------------	---

合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・交流級で、友達と適切な関わりができるような指導場を設定する。 ・登校後や下校前にすることを一覧表にして提示する。
-------	--

	支援機関	支援目標・内容
教育 在籍校	担任(1年) (年) (年) 連絡先: ×××-△△△-〇〇〇〇	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と適切に関われるように、絵カードを用いてコミュニケーションの学習をする。 ・本人が判断して行動できるように、活動の準備物一覧を掲示したり、持ち物を連絡帳に記入する機会を設定したり、物の定位置を示したりする。 ・ロールプレイを通して、友達への言葉の掛け方、約束を守ることにについて学習する。 (〇〇年〇月追加) ★2
	(その他) 支援機関: 〇〇教育センター <月1回> 連絡先: ×××-△△△-〇〇〇〇	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の行動の振り返りを行うための助言をする。

福祉	支援機関: 〇〇放課後クラブ 連絡先: ×××-△△△-〇〇〇〇	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の学習や余暇活動の場を提供する。 ・友達への言葉の掛け方や約束を、活動直前に声を掛けたり、カードにして活動場所に掲示したりする。 (〇〇年〇月追加) ★1
----	-------------------------------------	--

支援の評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> 〇年度 ・適切なコミュニケーションの力を付けることをねらい、友達との関わり方や約束を守ることにについて学習を行った。学習内容について学校や放課後児童クラブと共通理解を図り、本人に言葉掛けをしたり視覚的な支援をしたりしたことで、友達と適切に関わることができるようになってきた。今後も継続して取り組んでいきたい。 ・学校と家庭で共通の支援ツールを使い、準備や片付けに取り組むようにしたことで、一人で学校に持って行く物の準備や片付けをする習慣が定着し、忘れ物をほとんどしなくなった。
----------	--

活
用
事
例

保護者と連携し、行動が改善された事例

離席や友達とのトラブルから、学校生活で注意を受けることが多くなり、だんだんと授業に参加できなくなってきました。



僕の願いは…
周りのことが気になるけど、
落ち着いて勉強したい。

B君

ケース会議実施（校内支援体制の検討）

参加者	内容
教頭、学年主任、担任、特別支援教育コーディネーター、通級指導教室担当、生徒指導主事、養護教諭	<ul style="list-style-type: none"> ○本人の実態と現状について共通理解 ○支援目標と支援内容の立案 ○通級による指導について検討



個別の教育支援計画の作成（保護者との懇談）

- 保護者の願いの確認。
- 学校や家庭、野球クラブ、それぞれの場で支援が必要なことを共通理解。
- 聞き取りを基に各支援機関で行われている支援と必要な支援について整理。
- 本人や保護者の希望を基に支援目標を設定。◆1
- 通級指導教室でのソーシャルスキルの学習について合意形成を図る。



個別の教育支援計画の活用

【校内での連携】

- 校内関係者で随時、支援について情報共有。
- 校内委員会で支援の評価、見直しを行い、支援の改善。

【保護者との連携】

- 医療との連携について保護者と検討し、受診。
- 保護者から医療機関に、学校の状況を伝えることを共通理解。
- 学校や家庭、野球クラブで、活動の予定や活動時のルールを掲示したり、できたことを積極的に賞賛したりするなど、支援方法の共通理解。◆2
- 学期末等の懇談会で各機関での支援について共有。

学習の成果が少しずつ表れてきた!!

〈学校〉授業中の離席が減り、スタディ・メイトの支援で話が聞けるようになってきた。友達と仲良く遊べるようになってきた。

〈野球クラブ〉自分の気持ちを言うだけでなく、友達の意見も聞けるようになってきた。監督が練習内容を提示してくれることで、みんなと一緒に活動できるようになってきた。

分かりやすい言葉を
掛けてもらうことで、落ち着いて
勉強ができるようになったよ!
野球クラブの友達と
作戦を一緒に考えて
練習できるように
なったよ!



B君

事例②

個別の教育支援計画 (例)

(年度 ~ 年度)

本人	ふりがな		性別	在籍校	〇〇市立〇〇小学校
	氏名	B		男	
				前籍校	学校(園)

支援の目標及び必要と思われる支援	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の見通しがもてるように、視覚的手掛かりを自ら活用できるようにする。 ○自分の気持ちを表すことや、場に応じた適切なコミュニケーションの方法を身に付けることができるようにする。
------------------	--

合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の見通しがもてるように、活動の予定等を視覚的に示す。 ・友達と適切な関わりができるように通級による指導で自立活動を行う。 ・教科学習では必要に応じてスタディ・メイトが支援する。
-------	---

	支援機関	支援目標・内容
教育 在籍校	担任(4年) (年) (年) 連絡先; ××××-△△-〇〇〇〇	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の見通しをもつことができるように以下の学習を行う。 ・活動の予定、持ち物を教師と確認しながら、連絡帳やスケジュール帳に記入し、自らチェックする。 ○場に応じた適切なコミュニケーションができるように以下の学習を行う。 ・ソーシャルスキルトレーニングを通して、自分の気持ちの表し方の学習を行う。(通級指導教室)

家庭	主な支援者; 父、母	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的情報を使って活動していることを賞賛する。 ・通級指導教室で学習したことを本人と話し合う。 ・確実に服薬できるように見守る。 ・△△スポーツ少年団の関係者と、効果的な支援について共通理解する。◆2
----	------------	--

医療	支援機関; 〇〇クリニック <月1回> 連絡先; ××××-△△-〇〇〇〇	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動への対処を保護者に助言する。 ・保護者と学校生活の状況を情報交換する。
----	---	---

地域生活	支援機関; △△スポーツ少年団(野球) <週2回> 連絡先;	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の予定や活動時のルールを掲示する。 ・帰宅時、保護者に活動の様子を伝える。 ・トラブルを回避する支援方法を家庭、学校と共通理解する。
------	-----------------------------------	---

支援の評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○年度 ・活動の予定の提示、持ち物を自らメモして教師と一緒にチェックしながら活動に取り組むこと、スタディ・メイトの声掛けにより、授業中の離席が減ってきた。家庭と連携し、連絡帳を活用している姿等を積極的に賞賛したことも効果的であった。今後はさらに視覚的手掛かりを自ら活用できるように支援を継続していく必要がある。 ・通級指導教室でソーシャルスキルを学習し、連絡ファイルを通して本人、通級指導教室担当者、保護者、担任で共有した。本人が学んだやりとりや行動を賞賛したことで、友達と適切に関わる姿が増えてきた。さらに、保護者を通して野球クラブと効果的な支援について共有したことで、練習に見通しをもち友達とうまく関わるできるようになっている。
----------	--

活用事例

小学校から合理的配慮を引き継いで学習に活用した事例

4月から中学校生活が始まります。教科の学習についていけるか、新しい学級の友達や先生に自分の困難さを理解してもらえるか、本人も保護者も不安を感じています。



私の願いは…

文字を書くことが苦手なので、パソコンやタブレットを使って勉強したいなあ…

Cさん

個別の教育支援計画の作成 (支援の整理)

【小学校での支援の流れ】	【小学校で効果的であった支援内容】
<ul style="list-style-type: none"> ○3年生の頃から、漢字を覚えられない。書字に時間がかかる。 ○読み書きの正確さや速度を評価するアセスメントを実施。 ○3年生6月に、学習障害と診断。 ○4年生より通級による指導を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本人と相談しながら、宿題の量の調整。 ○通級指導教室で、タブレットのフリック機能を使って文章入力の練習。 ○タブレットのカメラ機能を使って、板書を撮影。家庭学習に役立てる。 ○テストで解答用紙の拡大、時間の延長。

個別の教育支援計画の活用



【授業参観や小中連携会議を実施】 テーマ「支援内容の引継ぎ」

参加者	内容
<ul style="list-style-type: none"> ○小学校…教頭、担任、特別支援教育コーディネーター ○中学校…教頭、担任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観を基に学習内容、教材、支援内容について確認。 ○個別の教育支援計画の支援内容について具体的な事例を交えて共通理解。 ○学期に1度、校内委員会で支援内容の検討を計画。

個別の教育支援計画の活用

- 教科担当者のケース会議で合理的配慮等を共通理解して支援を開始。 **01**
- 随時、支援内容、合理的配慮が適切かどうかを本人に確認。
- 必要に応じて、特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会を実施。

方法は友達と違っていても、小学校のときからやっている自分に合った方法で、みんなと勉強することができて、安心です!



Cさん

事例③

個別の教育支援計画 (例)

(年度 ~ 年度)

本人	ふりがな		性別	在籍校	〇〇市立〇〇中学校 1年～3年
	氏名	C	女	前籍校	〇〇市立〇〇小学校

現在困っていること		将来についての希望	
本人	保護者	本人	保護者
・文字を書くことが苦手である。	・漢字等の書字に時間がかかることで、学習の遅れにつながるのではないかと不安である。	・高校に進学したい。	・高校に進学してほしい。

支援の目標及び必要と思われる支援	<ul style="list-style-type: none"> 〇読み書きの困難を軽減するための自分に適した方法が分かり、その方法を用いて学習内容を理解することができるようにする。 〇自分が提供されている合理的配慮の必要性を質問されたときに、説明することができるようにする。
------------------	--

合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任が書く量を調整するとともに、重要な部分を赤で囲むなどの工夫をする。 ・教科担任が授業後の板書を本人のタブレットのカメラ機能を使って写真に撮り、帰りの会前に担任（副担任）が印刷して本人に渡す。 ・記述課題では、パソコンで入力し、プリントアウトしたものの提出を認める。 ・テストでは、解答欄や資料の拡大、教科ごとに10分間程度の時間延長を行う。手書きで回答する際に、国語の漢字問題を除いて平仮名での解答でも正解とする。 ・見る力や記憶を高める学習、自分に合った学び方を知る学習等を通級指導教室の自立活動で行う。
-------	--

	支援機関	支援目標・内容
教育	担任（1年） （年） （年） 連絡先；××××-△△-〇〇〇〇	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことへの負担がないように、数学の証明問題等、書く量が多い課題では、ノートに貼れる大きさのプリントを用意し、重要な箇所だけを書き込む穴埋め式にする。 ・ビジョントレーニングを通して、見る力を高める学習を行う。 (通級指導教室) ・パソコンの機能（予測変換、文章の切り取り、貼り付け機能等）を活用して、文章で答えることができるようにする。 (通級指導教室)
	(その他) 支援機関； 連絡先；	

医療	支援機関；〇〇クリニック 連絡先；××××-△△-〇〇〇〇	<ul style="list-style-type: none"> ・心理検査の結果を踏まえた支援方針を保護者や学校に助言する。 ・本人が自分自身の得意・不得意・困難さ等の自己理解を図ることができるように助言する。
----	----------------------------------	--



Q 誰が作成するのですか？

A 担任が中心となり、特別支援教育コーディネーターや関係教員（教科担任や通級指導担当者等）と相談しながら原案を作成します。



Q 本人及び保護者の願いや希望は、取り入れるのですか？

A 本人及び保護者の願いや希望は、支援目標に反映しましょう。願いや希望は、前年度からの引継ぎや保護者からの聞き取り等から、把握します。その際、6ページにある「聞き取り用紙」の項目を参考にするとよいでしょう。



Q 実態把握は、どのようにすればよいですか？

A 子供の障害の状態や家庭生活、学校生活の様子等幅広い観点で実態を把握することが大切です。また、発達検査等により客観的に子供を見つめることも有効でしょう。なお、学校生活の実態を把握する場合には、「子供のために先生が気づいて動けるチェックリスト」の活用をお勧めします。



Q 校内で検討したり共通理解したりしたいのですが？

A 学年会や校内委員会で「個別の教育支援計画」の原案について、話し合しましょう。そして、子供の学習面や行動面等の支援について共通理解しましょう。校内委員会等で共通理解が得られたら、本人・保護者と合意形成を図りましょう。



Q 関係機関との連携は、どのようにすればよいですか？

A 個別の教育支援計画の作成時だけでなく、日常的に当該計画を活用しながら、学校と保護者、関係機関が情報を交換することが望ましいでしょう。その際、各機関の役割分担を明確にしておきましょう。



Q 個別の教育支援計画の評価は、どのようにしたらよいですか？

A 支援目標を達成するために、各機関が連携して取り組んだ支援が適切に実施されたかどうかについて、1年毎に評価しましょう。また、評価に基づいて改善すべき点や新たな課題等についても考えましょう。



Q 引継ぎは、どのようにしたらよいですか？

A 年度末に**本人・保護者の同意を得た上で、新学年に引き継ぎ**ましょう。他の学校への進学時や転学時も同様に、本人・保護者の同意を得た上で、個別の教育支援計画を引き継ぐように努めましょう。



Q 保存や管理は、どのようにすればよいですか？

A 記載された個人情報が漏えいしたり、紛失したりすることのないよう、個人情報の管理の**責任者である学校長が適切に保存・管理**します。卒業後又は転出後は本人・保護者の同意を得た上で、適切に保存しましょう。



関係機関との連携

家庭

- ・保護者
- ・兄弟姉妹

など

地域

- ・町内会、地区児童会
- ・スポーツ少年団

など

学校

- ・特別支援教育
コーディネーター
- ・養護教諭

など

労働

- ・障害者職業センター
- ・ハローワーク

など

福祉

- ・放課後児童クラブ
- ・児童発達支援センター

など

医療・保健

- ・病院（主治医）
- ・言語聴覚士

など



わかる! できる! つかえる!
「個別の教育支援計画」作成・活用マニュアル

平成31年3月 発行

発行：富山県教育委員会

編集：富山県教育委員会 県立学校課

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号

TEL.076-431-4111